

特 集

フィリピンで日本文化を楽しもう！ 茶道裏千家淡交会 マニラ協会

5月20日に、茶道裏千家淡交会マニラ協会主催の「初夏の茶会」にお誘いいただき、茶道を体験してきました。場所はマニラ日本人会 22階の和室。カジュアルな雰囲気を想像していましたが、和服でのお出迎えを受けて背筋が伸びました。

その体験を主催者である茶道裏千家淡交会マニラ協会の皆様のインタビューも交えて紹介させていただきます。ぜひ最後までお楽しみください。(編集委員N)



一わずかに緊張の面持ちで、茶室に足を踏み入れる

会場に着くと、第二席へ通されました。マニラ日本人会の和室は、普段は会議等で利用されている簡素な和室ですが、その日は茶会のために選び抜かれた茶道具が置かれており、道具の一つ一つにおもてなしの心を感じました。



赤い毛氈の上に厳かに座り、冒頭、席主の方からご挨拶を受けました。席主とは、お客様に席の設えをご説明される方です。今回、コロナ禍明けの最初のお客様を招いてのお茶会ということもあり、フィリピンでお茶を点てられることへの感謝の気持ちが茶席のしつらえに表されているとのことでした。

続いて、亭主がお茶を点てる準備に入ります。長く稽古を積み、身につけた一連の動作には乱れがありません。

—茶道具、お茶菓子へ込められた想い

お茶を点てている間に、その日に合わせて用意された茶道具やお菓子の説明がありました。

【本席掛物：鵬雲斎筆「萬歳緑毛亀」と書かれた掛け軸】



日比友好 50 周年行事の献茶の際に、京都の裏千家から寄贈されたものだそうです。

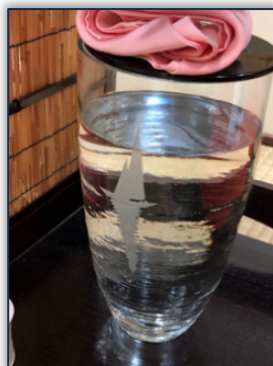
「萬歳緑毛亀」とは、長寿により甲羅に苔が付着している亀のことで、フィリピンで長く活動できていることへの感謝の気持ちを表すとともに、4月19日に100歳を迎えた大宗匠（第15代 鵬雲斎千玄室）へのお祝いも含めてこの掛け軸を選ばれたそうです。

この茶会がフィリピンで行われていることを感じさせる道具の紹介もありました。

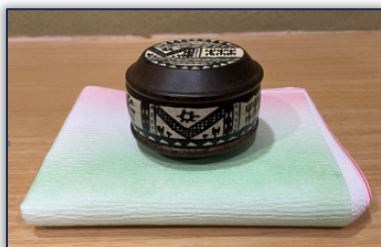


【フィリピン製ガラスの水指】

水を入れると海に漂うヨットのデザインが浮かび上がり、遊び心を感じられるガラスの花瓶が水指として使用されていました。



【フィリピン椰子の香合】



香合として選ばれたのは、民族調の図柄が施された椰子の木で作られた小物入れでした。



【茶器と茶碗】

茶器は、少数民族により製作された籠の小物入れの内側に茶器として使用出来るよう漆を塗った物でした。

こちらは以前、淡交会マニラ協会が日本の裏千家へ贈った品だそうです。その後、裏千家が茶器としての価値を認め、大宗匠の箱書と共に淡交会マニラ協会へ寄贈されたとのことでした。



お茶碗の中には、フィリピン人の会員の手によって製陶された「Brown Earth Blue Sky」と題された茶碗があり、茶碗の縁を覆うように流された美しい青が印象的でした。



それぞれの茶道具が見事に調和しており、心安らげる茶室となっていました。



【お茶菓子】

季節の移り変わりが目に浮かぶような藤と菖蒲が描かれたお懐紙に供された涼やかな三色の琥珀糖。てい・はうす製のもの

で、フィリピンの国旗の色を表現しています。

しゃりしゃりとした食感は、蒸し暑さを感じ始める時期にぴったりで、五感で初夏を感じさせるお菓子でした。

時にはメンバーが集まってお茶菓子を作るそうです。



—所作に表現される「客人への心遣い」

お茶が出される前に席主より簡単な頂き方の説明がありました。



口をつける前に茶碗の正面を避け、時計回りに2度回すことは一般的によく知られている作法ですが、この理由をご存知でしょうか。

亭主は客人に器の正面を向けてお茶を出します。その動作には客人の位を上げてもてなす意味があり、客人はその心遣いを敬って正面を避けて口をつけるそうです。もてなす側も、もてなされた側も、相手の行為へ思いやりをもっているのですね。

茶碗を受け取ったら、両手で押し頂いて少し持ち上げ、点ててくださった亭主と、この場にご一緒できることに感謝の念を表します。一つ一つの何気ない動作の中に、和の奥ゆかしさがあるこ

とを学びました。このような心遣いは茶道に限らず、日本文化や伝統芸能にも通じる姿勢なのではないでしょうか。

—ほどなくしてお茶が運ばれました

教えられた作法を確認しながら、お茶を頂きました。琥珀糖の甘さからすっきりとしたお茶の苦みが口に広がり、すっと身体にしみていくような一服を味わいました。

戦国時代に茶の湯が盛んになりましたが、武士が心を落ち着けるために茶室に入った気持ちがわかるような気がします。



—フィリピンで「茶の心」普及に努める淡交会マニラ協会

お席の合間に会長、副会長にお話しを伺いました。

発足は 1997 年、当時フィリピン在住でいらした永田先生が個人でお茶を教えていたことがきっかけだそうです。



現在、裏千家は世界 37 ヶ国・地域 112 ヶ所に海外出張所・協会があり(令和 3 年 4 月現在 裏千家淡交会ホームページより抜粋)、マニラ協会は正式に認められた一組織です。2017 年には 20 周年を迎えました。

現在、マニラ協会には常駐の先生はおりませんが、上級者が中心となって、お互いに研鑽しながら日々のお稽古をなさっているそうです。また、マカティパークアンドガーデン内には、裏千家からマカティ市に寄贈された茶室「涼泉庵」があるそうです。



マニラ協会は週2回のお稽古に加え、JICC（大使館広報部）や比日協会はもとより、アテネオ大学の教授会やデ・ラサール大学の生徒へのデモンストレーションなど、対外的な活動も活発にされています。

鵬雲齋千玄室大宗匠は、特攻隊員として第二次世界大戦を体験された経験から「一腕からピースフルネスを」との想いがあり、長年世界各地でお茶を通じた交流を続けているそうです。その心は裏千家の支部や協会へも浸透しています。



一遊び心を持って、目でも楽しむ

素朴な疑問として、日本製の茶道具が手に入らなくて困らないかお尋ねしました。今回のお茶席がそうであったように、必ず日本のものを使用しなければいけないという制約はないようで、フィリピンのショッピングモールや民芸店で購入した小物を採り入れることもあるそうです。



茶道と言うと作法に目が行きがちですが、本来は茶室という空間で客人をもてなすためのものなので、空間演出には自然と目が向くようになるのですね。茶道は総合芸術との言葉に、深くうなずいてしまいました。



また、茶道は習い事として少し敷居が高そうなイメージがありますが、多くの方がマニラで茶道を始めているそうです。お稽古に使う持ち物は初心者用に貸出や販売も可能とのことで初めの一步は踏み出しやすいですね。本帰国された方々が東京で教室を開いており、帰国後も続けてお稽古ができる環境があるそうです。

ご興味のある方は一度練習日に覗いてみてはいかがでしょうか。

 参加者募集中		見学も可能です！ どうぞお気軽にお問い合わせください。
日 時	毎週火・金・土のうち週1日参加 9:30-12:30 (準備や片付け時間含む)	
場 所	マニラ日本人会 和室(22階)	
お問合せ	manilachado@gmail.com	

茶会を催して(もてなす側の心境)



第一席目は、まぶはい編集委員も務めているA.0さんのお点前でした。お茶を習い始めて17年を迎えられるということで、トップバッターとして堂に入った美しいお点前でした。もてなす側の心境についてお聞きしました。

—亭主として

今回の私の役割は亭主で、簡単にいうとお茶を点てる役です。当日の心境としましては、「皆さんに迷惑はかけられない」という思いから、とても緊張しておりました。

私は、お茶会では亭主とお客様が心を通わせて心地よく過ごしてもらうこと、その為に、特に薄茶でのお点前は緊張をお客様に伝えず黒子のようになり、お客様が空間を楽しんでいたら、いつの間にかお茶がたっていた。というのがよいお席ではないか思うのですが、寛いでもらいたいと思いながらもまだまだ実践は難しく、「手順を間違えないように…」と張り詰めたお点前をしています。

そうするとお客様もゆっくりできない雰囲気になってしまいますし、窮屈なお席だっただろうと反省です。精進して隙があるようでない、ふんわりとしたお席の雰囲気を作り出したいと思っています。



お茶会では様々な役割があります。亭主以外にも、お茶やお菓子を用意する水屋のお仕事、ホスト役である席主、プロデューサー役である統括。席主と統括、それぞれの心境について伺いました。

—席主として (Y.Mさん)

席主としては「場が和やかになるように」心がけました。具体的には、笑顔でゆっくり話すことを意識しました。茶道の心得がない方がほとんどだと思いますし、知り合い同士でもない中で、席を共にすることになった気まずさや緊張感があると思うので、それを出来るだけ取り除けるように心がけました。

…といっても自分自身も緊張しました (笑)



—総括として (H.Mさん)

・お客様に薄茶（抹茶）を美味しく召し上がって頂く為に、人数が多い場合は影点て（水屋でお茶を点て出すこと）をします。出来立てのお茶をお待たせせずに素早く出せるように、稽古の段階からフォーメーションと動線を確認してきました。

・今回は、フィリピン人のお客様も多数いらっしゃいました。そのため、英語の堪能なメンバーが席中での通訳や英文リーフレットの作成を行い、全てのお客様にお愉しみ頂けるように心がけました。

・今茶会は、マニラ協会にとって3年ぶりの茶会となりました。メンバーが茶会で様々な役割を経験することは、先ず各々の成長に繋がり、且つ協会の連帯感を強める貴重な機会であると考え、準備や稽古を統括しました。

—おわりに

お二人のお話を伺い、まずは自分のお点前に専念すれば及第点の亭主は気楽なのかもしれないと思いました。今は席主や統括役になるには力不足ですが、いろいろな経験を通して成長し自分も他の役割を全うできるよう力をつけたいと思います。

